

飲水思源

いんすいしげん

町長

松岡市郎

「東川米」の評価の高さから学ぶ

まちづくりの基本は、ベースとなる産業が発展し持続することであると思っ
ている。今年も6月上旬に東京・浜松町で
ひがしかわ東京会が開催され、その後板
谷重徳東川町農協組合長と一緒に、米や
野菜の取り扱い関係流通会社などを訪問、
感謝とお礼を申し上げるのが慣例となっ
ている。今年は浜辺啓町議会議長も同行
し、名古屋と川崎のある大手米穀会社を
訪問した。

会長、社長、幹部役員の皆さんから丁
重な出迎えを受け、精米工場などを詳し
く案内していただいた。消費者との信頼
関係を維持するため、衛生と商品管理に
は過剰、異常と思えるほど万全を期して
いる。特に注意しているのは「衛生管理」
「異物混入」「着色米混入」「産地表示」
である。

驚いたことに、地域団体商標登録され
た「東川米」が販売米の袋に大きく印刷
され、町の名前が販売米の銘柄になっ
ていた。多分、全国でも東川米だけではな
いだろうか。

加えて袋の裏面には「写真の町」東川
町が大きく紹介され、町のPRにも貢献
をいただいていた。農協とこの会社の取

り組みに感激した。板谷組合長は会社の
幹部から、異口同音に「消費者の評価が
大変良い」「もう少し東川米を取り扱わ
せてほしい」と強い懇願を受けた。

「東川米」が実に高い評価を得ている。
なぜだろうか。それは生産者と地元
の東川町農協が一体となって取り組んでい
る生産履歴など、良食味を生産しようと
する品質への責任とこだわりが高く評価
されているからなのだ。来年は開拓12
0年。農業は苦難の連続であったが、未
来を展望し、稲作を中心として環境に順
応した栽培と流通にコツコツと努力を積
み重ねてきた勇氣ある行動の結果だ。
「日本一売れる米づくり」が現実的にな
っている。独自の開拓魂が入っている、
と感じた。

この高い評価に接して、自然科学者
ダーウィンの言葉「生き残る種というの
は、最も強いものでも、最も知能の高い
ものでもない。変わりゆく環境に最も適
応できる種が生き残るのである」を思い
出した。まちづくりも環境の変化に適切
できるものでなければならぬ、と大切
なことを学ぶ。

俳句

不揃ひに熟れてうまみの庭苺	高橋 公花
観賞し自家産初の苺喰う	杉山 ひろのり
青い空一直線にいちご苗	保科 なほ
ミキサーに残るイチゴの断末魔	徳光 吐苦
初苺まず神佛に供へけり	杉山 りつ
孫叫ぶ「大きいー!」「まっ赤!」苺つみ	山口 佐知子
口ずさむ苺白書をもう一度	横田 則子
名をもらいし吉田茂の茂りかな	若田 茂
若葉風むね躍らせる波のよう	高瀬 潤
運動会みんな選手で役員で	石澤 清宏
菜園の夏始まりて値を下す	澤田 久美子
学帽の兄に供えし初苺	松山 蓉子
青草にサマードレスの裾はねて	三島 智
草茂る耳を澄ませば風の神	若田 郁
苺と酒スーパーマンの夫は還暦	本田 咲
いちご狩り両手ほっぺ欲ばって	山内 みゆ
なかなか消えぬ思い出花火散る	秋山 深雪
心して地産地消の苺買ふ	長谷川 きみゑ
投光器クロスしている田植え時	小林 ろば

